

教育委員会が中学校統合について保護者、町民の方々に説明を始めて1年が経過しました。

8月中には再度、町内8中学校区で3回目の保育所、小・中学校保護者を対象に統合問題説明会を開催します。

その説明会に併せて、これまでの統合問題の経緯と課題について整理してみました。

活力ある学校づくりをめざして 学校統合を進めます

1

学校統合の必要性

(1)

本町の小学校は全学級の半数以上が複式学級で、機会均等であるべき教育の実現を憂える状況にあります。昨年の町全体の出生数は75名であり、その子どもたちが14の小学校に分かれて入学します。今年の中学3年生は132人。徐々に生徒数が減少しており、1学年平均10人以下の中学校が5校あります。少子化への緊急な対応が必要と考えます。

(2)

複雑高度に発展する文明社会に生き、国際化・情報化によりグローバル化した未来社会に対応できるたくましい児童生徒の育成のためには、よい意味で生徒同士の競争による切磋琢磨や学校生活の活性化を通じた学力の維持向上、社会的諸能力の育成が求められています。

2

提案してきた2校案

東部地区の中学校は、生徒数

194名の8学級で現安下庄中学校の地に、西部地区は、生徒数207名、9学級で現大島中学校の地に統合することが、生徒数や教師数により部活動や学習面等学校生活の活性化をもたらすと2校案を提案してきました。

この案は、耐震診断結果による生徒の安全面をクリアできること、また、堅牢な現有校舎の有効活用、さらに、スクールバスによる通学時間も油田地区以外はおおむね30分以内で可能なこと、4校案では、しばらくすると再統合が必要なこと等を説明してきました。